idea

ニュースレター「イデア」

2022.7

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

1｜二言三言｜　Aimi Bellさん・一関市国際交流協会　垣内幸治さん(後編)
3｜団体紹介｜　東山クレッシェンドの会
5｜地域紹介｜　猿沢中央自治会（大東）
7｜企業紹介｜　株式会社　千厩自動車学校（千厩）
8｜博識杜のフクロウ博士｜　地域運営の落とし穴㉔　地域は、活性化を求めているか？
9｜センターの自由研究｜　くらし調査ファイルNo.16「冷蔵庫のない暮らし②」

今月の表紙

1つずつ丁寧に紫蘇に包まれた梅干し。当センタースタッフの実家で貯蔵されていたもので、50年以上前に漬けられたものだとか！塩のみで漬けられたシンプルな梅干しですが、長期保存には細やかな初期処理が必要であり、当時の「食材保存スキル」の高さに感心させられます。そんな「冷蔵庫のない時代」の「食生活」とは……？（自由研究）

idea

発行　いちのせき市民活動センター
せんまやサテライト

〒021-0881　一関市大町4-29 なのはなプラザ4F　Tel 0191-26-6400　Fax 0191-26-6415
〒029-0803　一関市千厩町千厩字町149　Tel 0191-48-3735　Fax 0191-48-3736
ホームページ：https://www/center-i.org/　メール：center-i@tempo.ocn.ne.jp

おしらせ

募集

「人形劇ラビット」会員募集

人形劇を通して子どもたちに笑顔を届けることを目的に、主に市内の幼稚園や子育て支援の場で、子どもや親子を対象にした公演を年4回程開催している「人形劇ラビット」では、人形劇に興味がある方、舞台の大道具や楽器演奏をしてみたい方など、一緒に活動してくれる仲間を募集しています。下記活動日であれば見学は自由です。詳しくはお問合せください。

活動日：毎月第2・4土曜日
時間：10時～12時
場所：なのはなプラザ3階　研修室
（一関市大町4-29）
問合：090-8685-5701
（代表：沼倉）

情報

「姿勢と健康」講座出張依頼承ります

姿勢は見た目だけではなく、健康と深く関係しています。「KCSセンター一関」では、姿勢と健康について、大学専門課程を修了した姿勢の専門家による出張講座に対応しています。「腰痛、肩こり、膝痛などの原因と対処法」「こどもの姿勢と健康」など、市民センターやサロンなどの事業としてもご活用ください。講座の詳細は下記までお問合せください。

内容：・姿勢と身体の関係
・猫背予防と疲れにくい歩き方
・子どもの姿勢と健康　等
問合：0191-48-3710
（姿勢専科®KCSセンター一関）

募集

シルバー人材センター会員募集

（公社）一関市シルバー人材センターでは、概ね60歳以上の健康で働く意欲のある会員を募集しています。会員は、それぞれの希望と能力に応じて、家庭や事業所等から依頼される様々な分野の仕事に対応します。詳しくはお住いの地域の事務所へお問合せください。

対象：概ね60歳以上の方で、定められた会費(2,000円/年＋互助会費1,000円/年)を納入した方
問合：　※全て市外局番 0191
〈一関・花泉〉 26-3760
〈大東〉 71-1234
〈千厩・室根・藤沢〉 48-3306
〈東山・川崎〉 35-3021

情報

厚生労働省 地域若者サポートステーション事業「いちさぽ出張就労相談」

いちのせき若者サポートステーション（通称：いちサポ）では、一関市内の各会場（千厩・大東・藤沢・花泉）を隔月で巡回し、これから働きたい、もしくは現在就職活動中の49歳までの求職中の方等を対象に、就労準備に関する相談、履歴書の書き方、面接練習など、必要に応じてサポートする取り組みを行っています（予約優先）。巡回日や詳細等は下記までお問合せください。

事業名：いちさぽ出張就労相談
対象：49歳までの求職中の方、その家族、支援関係者等
問合：0191-48-4467
（いちのせき若者サポートステーション）

情報

「イマカラ」登録者募集

「いちのせき市民活動スタッフバンク」通称「イマカラ」は、一関市内で開催される「スタッフを募集したいイベント」と「地域で活動したい人」をマッチングする仕組みです。当センターのホームページ内「いちのせき市民活動スタッフバンク」のページからスタッフ登録をすると、スタッフを募集しているイベント情報等が随時メールにて配信されます(スタッフ登録は無料)。
イマカラの詳細は右のQRコードからもご覧いただけます。

問合：0191-26-6400
（いちのせき市民活動センター）

講座

「社内会議向上講座」受講者募集

組織・チームの方向性を定めるために必要不可欠な「会議」や「ミーティング」「打ち合わせ」。その在り方・進め方を見直すことで、チームの力は大きくUPします。会議運営の基本的な考え方や進め方、意見を引き出すためのコミュニケーション等、会議運営スキル（ノウハウ）をお伝えします(定員10名)。

日時：全4回の連続講座です。
2022年7月29日・9月30日・11月25日、2023年1月27日
各回とも19時～20時30分
受講料：2,000円（全4回分）
会場：なのはなプラザ4階
問合：0191-26-6400
（いちのせき市民活動センター）

まちの写真展

スタッフがまちの１コマを切り取ります。

作品名「3年ぶりの賑やかさ」

室根町・矢越山の「ひこばえの森」で30年以上に渡って行われている「森は海の恋人植樹祭」。コロナ禍で令和2・3年は主催団体の関係者のみでの実施でしたが、今年は一般参加者が3年ぶりに参加。地元・室根12区自治会が同時開催する「水車まつり」も大盛況でした。

旧町村別の人口動態等を共有します。

2022年**6月1日**付
(2022年５月31日現在住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体

		前月比
人口	110556	-90
世帯数	46426	57
出生数	44	-1

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	54954	-9	24532	33
花泉	12253	-21	4710	3
川崎	3323	-2	1281	0
千厩	10031	2	4117	4
大東	12204	-32	4918	-1
東山	6000	-13	2287	4
室根	4517	-10	1778	1
藤沢	7274	-5	2803	13

言言二三

162 163/110,556

Aimi Bell 垣内 幸治

日本語教室の様子（「ゆうの会・にほんご教室」）

【ベル アイミ】父親がオーストラリア人、母親が日本人（東京出身）。オーストラリア出身で、2015年に来日し、宮城県気仙沼市で外国語指導助手（ALT）を務めた後、2018年から「国際化推進員」として一関市役所に勤務。気仙沼市出身の日本人男性と結婚し、現在は花泉町金沢在住。

【垣内 幸治】令和２年２月発足の一関市国際交流協会事務局長。旅行が趣味で、複数の国を訪れる中で気軽に外国人との交流が持てるように。東京生まれ。本業は農家。

第96回　一関市在住　外国籍市民　ベルアイミさん　一関市国際交流協会　事務局長　垣内幸治さん　×　いちのせき市民活動センター　センター長　小野寺浩樹

「くらしの思考」を「国際化」
～言語ではない寄り添いかた【後編】～

「多文化共生」を目指す当市には、中国、ベトナム、フランス、フィリピン、マレーシア、タイ、パキスタン等々、様々な国から来日した外国籍市民が居住しています（令和3年3月末現在864人）。果たして「多文化共生」に向けて、日本国籍の市民が持つべき視点とは何なのでしょうか？ 身近な経験から考えていくと、見落とされがちな視点が見えてきました（2回シリーズの後編）。

小野寺　実は小学生の娘のクラスに両親共に外国籍の子がいて。幼稚園から一緒だったこともあり、入学準備とかも僕の妻が手伝ったりしてたんですが、それがきっかけで外国籍の子どもたちの現状が気になってきて……。

アイミ　私が気仙沼市でALTをしていた頃は、日本語があまりできない子に、ヘルパー※1のような人が付き添っている学校がありましたよ。

小野寺　生徒向けのサポートはあるのかもしれないですが、問題は外国籍の両親向けのサポート。渡される書類なども全部日本語なので、提出しなければいけない書類があっても読めないし書けないわけですよね。入学準備で大量の教材などに名前を書かなければいけない時も「フルネームで」と指示があると、名前が長いので記名欄に入りきらないし、とにかく大変で（笑）

垣内　「そういう状況がわかって通ってるんでしょ」と思われがちですけど、一市民として税金も納めてもらってるわけですから、最低限のサポートは必要ですよね。

小野寺　そうなんです。少し気を配ると、気づくことがいっぱいあって。例えば、宿題の音読も、親が評価をするんですが、両親は日本語がわからないので、正しく読めているのかがわからず、評価が書けない。なので時々僕の妻にLINEで音読の動画が送られてくるんです（笑）

垣内　確かに。子どもは学校で勉強してるから、ある程度日本語がしゃべれるようになるんですよね。親へのケアも必要ということですね。

小野寺　実際、親子間の確執が生まれてるみたいで。私はこんなに日本語の勉強頑張ってるのに、お母さんはしないの？という感じのことが、幼稚園の頃からあったみたいです。

※1　外国人児童生徒を支援する支援員や通訳等の外部人材の学校への配置が全国的にも進められている（文部科学省ＨＰ参照）。

アイミ　勉強したくても、一人で行くのは勇気がいります。それに、英語は半年くらいで何とかなりますが、漢字に馴染みのない国の人だと日本語の読み書きに苦労します。何とか生活できてるし、無理して覚えなくても良いかなという人もいるのかも。仕事の一環として行くのならまだしも、趣味として行く余裕がある人は少ないでしょうね。

小野寺　学ぶ環境は用意していても、そこに踏み込むきっかけが欲しいわけですよね。一関に住んでいる外国籍の人同士にはコミュニティがありますか？

アイミ　ありますが、基本は同じ言語の人同士のコミュニティですね。私は他の言語のコミュニティとも関わりたいですが、会う機会がなかなかないです。

垣内　だから今、フットサル大会を企画してるんです。国籍や言語毎のコミュニティで参加しつつ、ほかのコミュニティとも交流するきっかけとして。

小野寺　良いですね。それから、アイミさんのように外国籍ママ同士のコミュニティなども必要かもしれないですね。

アイミ　実際、私は同じ病院で去年出産したマレーシア出身の友達にいろいろ教えてもらいました。言語の壁、コロナ禍で両親教室なども中止、夫も付き添えなかったり、不安なことがありますが、同じことを経験した人と話せると心強いです。

小野寺　出産時の入院食や学校給食が「ハラール※3」に対応しているかどうかは重要ですよね。ハラール対応していない給食だと、お弁当を持って行くしかない。でも入院中は無理……。

アイミ　食べ物のアレルギーをチェックするようにハラールなども聞いてくれると良いですね。

垣内　確かに。ムスリムの人の中でも、どこまで徹底するかは違うようなので。料理酒やみりんがNGな人もいるようです。

小野寺　一関も外国籍市民へのサポートとして様々取り組んでいますが、抜けている視点や、逆に「そこまでやらなくて良いのでは？」というものも……。極端な話、ちょっと英語が話せる人が増えれば良いだけなのに、「翻訳したから読んでください」というアプローチになってしまい、肝心の当事者たちは案外読まないわけで。

垣内　構えすぎちゃうんですよね。簡単な日本語にすれば分かる人ってけっこういる。完璧な英語は求められてないから。「困っていることが、ありますか？」とかで良いんですよ。

アイミ　みんなそれぞれ知り合いが少しずつ増えれば、住みやすいところになると思うんです。誰かと誰かがつながれば、また誰かにつながる。そのためにも、コミュニティで集まろうと思った時に気軽に利用できるスペースがあると良いですね。

小野寺　「英語が話せれば国際化」ではなく、「生活の感覚」が国際化しなきゃいけないんですよね。例えば接客業の人が帰り際に「また来てね」と一声かけるだけで違ってくるのかもしれないな。

一関市国際交流協会
住所　一関市大町4-29なのはなプラザ4階
電話　0191-34-4711

※2　【関が丘教室（関が丘市民センター）】毎週日曜日　10：00～12：00
【ゆうの会・にほんご教室（なのはなプラザ3F）】毎週水曜日　13：30～15：30／毎週日曜日　13：30～15：30
※3　イスラーム法において合法なモノ（食品、事）のことで、ここでは「イスラム教を信仰するムスリムが食べられるもの」を指す。

団体紹介

東山クレッシェンドの会
平成28年、東山地域の「ピアノの先生」で結成（現在は代表含め３人）。音楽コンサートの企画、外部アーティストの誘致、会場運営を主軸にしながら、地元文化祭等では会員によるピアノ演奏も行う。

〒029-0301　一関市東山町田河津字夏山174
（代表：佐藤）
TEL：090-8786-9653（同上）
写真：プロのピアニスト（前列中央）とコンサート協力メンバーとの集合写真

「本物の音楽」で地域に「夢」と「希望」を

東山クレッシェンドの会

「プロによる本物の音楽」を地元に

「本物の音楽を地元・東山で聴けたら……」プロの演奏やコンサートを聴くためには、市外に行かなければならず、どんなに近くても旧一関エリアの会場……。

そうした現状に「自分の住む地域でコンサートを開けたら、もっと音楽に興味を持つ人が増えるはず。子どもたちも音楽を通した『夢』を持つかもしれない」という想いを強く抱いたのは、東山町内でピアノ教室を営み、日々子どもたちに音楽の魅力を伝えている３人のピアノ教師でした。

音楽を通して約30年前に出会っていた３人ですが、平成25年に東山公民館（現東山市民センター）が開催したピアノコンサートの実行委員を皮切りに、同館主催のコンサート等に関わるようになります。

複数の実行委員を経験する中で「自分たちの力でアーティストを呼びたい」との想いが芽生えた３人。団体結成を決意すると、同館事業のみならず、東山町内の各種イベントに参画し、企画・運営スキルを磨きました。

会を設立した矢先の平成28年、同会の噂を聞きつけた宮城県のイベント会社から「アメリカ陸軍軍楽隊による『ビッグバンドジャズコンサート』を開催しないか」という思いがけない誘いが！

この誘いを受けると、地元中学校吹奏楽部とのコラボ演奏をイベント会社に打診。プロの演奏が聴けるだけでなく、地域の子どもたちがプロ奏者と同じ空間に立つという貴重な機会を実現させました。

初の主催コンサートは世界で活躍するピアノ奏者

その後もイベント会社や「東山芸術文化協会」等と協力し、共催形式でコンサートを誘致・開催していきますが、佐藤さんたちは、「主催事業として誘致を実現できないか」と考えるように。そんな折、気仙沼市で開かれた復興支援関連のコンサートで世界的ピアニスト・中村天平さんの演奏に出会います。その演奏に感動した佐藤さんは、中村さんの全国ツアーの中に当市での演奏も盛り込んでもらえないか、直接オファーしたのです。

平成29年、そのオファーが実を結び、中村さんを迎えての同会初主催コンサートが開かれます。観客はプロピアニストの生演奏はもちろん、自身の全国ツアーのエピソードや音楽の道を志した経験談にも聴き入り、子どもたちも「将来はピアニストになりたい」と語りだすなど、当初から描いていた想いの通り、子どもたちに「夢」を与えるきっかけを創り出したのです。

「音楽あふれるまち」を目指して

主催事業はもちろん、幅広い世代へ音楽の魅力を広げるため、地域内の他団体と連携し、親子向けから中高年層向けまで、様々なコンサート開催に協力するなど、経験と実績を積み上げていった同会。アーティストの公演誘致やチケット販売だけでなく、会場設営や楽屋管理なども大事な仕事です。

佐藤さんは「公演の事前準備から、当日～本番～終演～片付けまで、その全てのストーリーが私たちにとってかけがえのない経験であり、思い出です」と微笑みます。

市内の高齢者福祉施設等への慰問公演を企画することもあり、お年寄りの方にとって馴染み深い曲目を事前にリサーチしておくなど、観客に喜んでもらうためのひと手間は、過去の実績の賜物。時には同会メンバー自らが、地元のイベントでピアノ演奏を行うこともあります。

佐藤さんは、「音楽とは、心を豊かにするもの。明日の活力になるビタミン剤だったり、疲れた心を癒すオアシスだったり、何気ない日常に日々欠かせないもの。だから、少しでも音楽が身近なものになるよう、音楽から花咲く笑顔の種まきをしているのです」と、音楽の持つ力を語ります。また、「まちの中で自然と音楽に触れられる、そんな環境を実現するために『ストリートピアノ』をみんなが集うところに置きたいですね。人々がふれあう機会が少ないご時世ですから、子どもたちがふれあえるコンサートなども企画したいですね」と、今後の目標を掲げます。

現在はメンバーが３人なので、公演の際には知人の協力を得ながら会場運営を行ったり、イベント会社や町内の団体、各種補助金を頼りにせざるを得ない状況もありますが、「今後はピアノ教室の先生に限らず、私たちの活動に協力していただける方を募りたいです」と、活動の輪を広げ、「本物の音楽」を地元に届ける役目を担い続けます。

Q.あなたにとって音楽とは？

代表

A. 心のオアシス

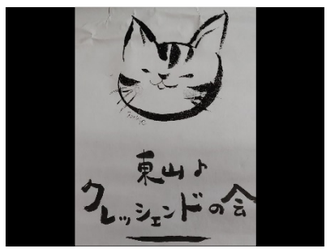
佐藤（さとう） 美枝（みえ）さん
幼少期から音楽への興味が強く、４歳からピアノを習い始めると、嫌なことがあってもピアノを演奏すると気が紛れるというほど、ピアノがなくてはならないものになっています。

会員

A. 心の豊かさ

及川（おいかわ） 美登里（みどり）さん
代表の佐藤さんと同じく、小さいころから音楽に慣れ親しみ、ピアノ教室の先生に。佐藤さんと一緒に企画・運営に携わりながら同会の会計も担当しています。

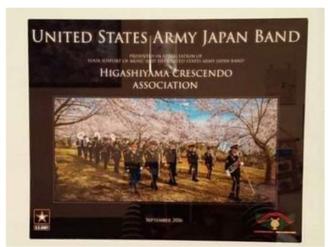
- Photo gallery -



思い出の一品
平成29年の「うれし市」参加の際、イラストレーターの戸田さちえさんが描いてくれたブース看板。大切に保存しています。

地域のイベントでも
平成29年に東山町の「かぢや旅館」で開かれた「うれし市」でのひとこま。ミニコンサートやBGM演奏で参加しました。

普段はピアノの先生
各々のピアノ教室では、「良い所を褒める」を大切に、子どもたちが音楽に親しみを持てるように丁寧に指導しています。



国を超えた「感謝状」
同会初事業のアメリカ陸軍軍楽隊によるジャズコンサート。軍楽隊から同会へ送られた感謝状は同会の宝物です。

今、ここに住むみんなの「幸せ」を大切に

大東 猿沢中央自治会

猿沢中央自治会（猿沢）

行政区は猿沢２区と猿沢３区。大東町猿沢地区の中央に位置し、113世帯256人が暮らす。商店街通りでもあるが、一歩路地を進むと中山間地帯でもある。７つの部会（総務、生活環境、文教、産業、婦人、体育、納税）と、12の班（２区：５班、３区：７班）で構成されている。

左の写真：猿沢地区振興会が主催する猿沢秋祭りに参加した際の集合写真（令和元年10月）。

旧保育園を交流や活動の拠点に

大東町猿沢地域の中央に位置し、２つの行政区（猿沢２区・３区）から成る猿沢中央自治会。自治会発足以前は行政区毎の納税組合が主体となり、地域振興や親睦活動を行っていました。

昭和52年、集落内の「大東町立猿沢保育園」が現住所に移設されたため、空いた建物や敷地を集落内各種団体の活動拠点として活用することに。その中で、自治会を設立し、各種団体が連携できる体制にすべきとの機運が高まり、昭和53年２月、両行政区内の各種団体を集約した形で猿沢中央自治会を立ち上げます。

設立と同時に、本格的に旧保育園（建物・園庭を含め）を自治会館として利用すべく、市から当該不動産を取得。「当時は、『そこまでして必要ないのでは？』という声もありましたが、『自分たちが管理し自由に使用できる活動拠点』を持つことで、自治会のメイン行事として『運動会・避難訓練』や『夏祭り』を開催するなど、活動や交流の範囲も広がり、『みんなの場所』としての認識も芽生えました」と、自治会長の千田泰さんは振り返ります。

女性が生き生きと輝く中央自治会

河川清掃や花壇整備、リサイクル活動やサロン活動など、日常的な事業は行政区毎に行いますが、自治会全体では７つの部会を設置し、部会長・副部会長を置いている同自治会。生活環境部と婦人部は、地域全体の事業や活動に関わる取り組みを行うため、両行政区から代表者を選出します。

また、横のつながりを重視し、総務部に各部会長が入ることで、各部会活動の整理と全体統括を行います。

事務局の菅原一さんは、「高齢化で人口も減りつつありますが、一人ひとりが役割を持ち、自治会活動を行っています。とくに婦人部では料理教室や「猿沢地区文化祭」での展示品創作活動など積極的で、自治会全体のイベントや秋祭りの賄い、収穫祭のもち料理作りなどでは、日頃の連携が活かされ、その実行力は頼もしいものです」と語り、千田さんも「当自治会の女性陣は強い……いや、輝いているよね」と、笑顔で相槌を打ちます。

交流事業で繋ぐ笑顔の輪

同自治会メイン事業の一つ「中央自治会夏祭り」は、帰省客らにも楽しんでもらうため、毎年お盆期間の８月14日に開催しており、令和元年の開催で12回目を迎えました（令和２年・３年はコロナ禍で中止）。当日は盆踊りや花火大会、縁日やくじ引きなどの催し物で賑わいを見せます。

１戸当たり５百円の会費と１口千円の協賛金（花火や金魚などの購入費に充当）で賄う夏祭り。会費と同額の商品券がついたチラシを全戸配布し、夏祭り当日に屋台（縁日）の商品と交換するシステムになっています。

婦人部が担当するのはリサイクル活動を兼ねたくじ引き。自治会員が持ち寄った未使用かつ自宅に眠ったままの品物などをくじ引きの商品にします。そのほか、基本的な準備は役員が中心ですが、会員（＝住民）も積極的に協力。少子高齢化で集落内の子どもたちは減っていますが、帰省客らも交えて集落内の交流が深まる一日です。

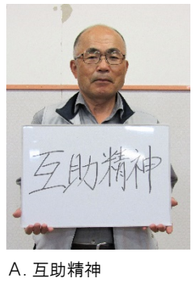
また、避難訓練も兼ねた「中央自治会大運動会」は、令和元年に37回目（令和２年・３年はコロナ禍で中止）を迎えました。12の班を、赤・白・黄・青組に分け、この組ごとに避難訓練などの役割が与えられます（輪番制。避難訓練担当、炊き出し訓練担当、運動会の片付け担当など）。

「炊き出し訓練で作るおにぎりなどは、運動会終了後の反省会（運動会自体は午前中で終了）で、みんなで食します。避難訓練と抱き合わせることで運動会の参加率が上がり、より交流が生まれます」と、菅原さん。同自治会副会長の中津山保彦さんと熊谷芳昭さんは「反省会での一杯がまた最高なんだよ。コロナ禍で２年中止したが、今年こそは」と笑顔を見せます。

２区の高齢化率は60・２％、３区は40・３％（令和３年３月現在）と、猿沢地域の中でも高齢化率が高く、若者・子どもは少ないものの、集落に残っている若者は積極的に活動に参加しているという同自治会。千田さんは「普段の活動が行政区毎に別れている分、一堂に親睦と交流ができる事業を行うことで、互いへの『無関心さ』をなくしています」と、良くも悪くも「関心を持ち合えている」現状を大切にしています。

Q.集落の自慢は何ですか？

自治会長



A. 互助精神

ちだ ひろし
千田 泰さん

１期２年目。納税組合長や猿沢地区振興会副会長など様々な役職を担っています。「今、ここに住むみんなの『幸せ』」を大切に、自治会運営を行います。

生活環境部長（２区）

A. いきいき人生！！

なかつやま きょうこ
中津山 京子さん

１期２年目。長年、婦人部の部長を務め、現在の婦人部の土台をつくりました。婦人部が世話役をするサロンの立ち上げにも尽力（猿沢地域の先駆け）。

gallery - Photo

農家組合と連携して

自治会行事として毎年田植えを行っており、できた新米は収穫祭などで味わいます（写真は令和３年の２区）。

拠点「中央自治会館」

集落の子どもたちが通った園舎を修繕し利活用。子どもの歓声が響き渡った園庭も、昭和52年以降は大人の歓声が!?

和気あいあいの収穫祭

収穫祭では婦人部が大活躍。自治会で収穫したもち米で餅やおこわを作り、振る舞います（写真は令和３年の２区）。

観福寺の夢灯り

毎年大晦日には「観福寺保存会」と自治会有志で、集落内の観福寺境内をライトアップし、参拝者に甘酒等を振る舞います。

毎月さまざまなテーマで地域づくりについて考えていくコラムです。

今月のテーマ

地域運営の落とし穴㉔

地域は、活性化を求めているか？

博識杜のフクロウ博士

第40話

「地域活性化」のゴールとは？

まちづくり、地域づくりの分野でよく目にする**「活性化」**という言葉。少子高齢化、人口減少という暗い話題から抜け出し、明るい未来に期待したい、そんな思いからついつい使ってしまいがちですが、果たして「活性化」とは何なのでしょうか？

単に人が増えたからといって「活性化」ではありません。「活性化」の捉え方は様々ですが、当センターとして「地域の活性化」を文章で表現しようとすると、**「問題解決や新たな価値創造への取り組みを絶えず起こせる‘創造的人材’が、多数存在する」「それらの人材によって、持続的に、自ら課題解決ができる」「住民が信頼関係でつながり、楽しく活き活きと生活し、自己実現ができる」**というところでしょうか。

地域での話し合いの際に「活性化を求めますか？」と問いかけてみたことがありますが、「活性化するとやることが増えるから、活性化しなくていい」という回答が多々。「活性化」＝様々な取り組みによって賑わっている状況＝「新規事業で負担が増える」というイメージにつながっているからだと推測できます。地域住民の多くは**‘誰もが安心して安全に住み続けられる’**ことを望んでおり、そうした住民が望む‘活性化した地域’は、**各世代に役のなり手がいて、一部の人だけの負担にならず、みんなで地域を運営できているような姿**です。一方、ヨソモノ・ワカモノ・バカモノに代表されるような‘リーダーシップをもった人が牽引している姿’を「活性化」と呼び、人が増え、賑やかになっていることを望んでいる人もおり、それを否定するつもりはありません。

当センタースタッフ佐々木も大卒で観光馬車の復活プロジェクト(青森県にて)に従事し、まさに「ヨソモノ・ワカモノ・バカモノ」ともてはやされた張本人…。ヨソモノは所詮ヨソモノだったと今は大いに反省しています。

‘イケイケ系’‘イヤイヤ系’‘ノーリアクション系’！？

とは言え、気をつけなければいけないなと思うことが。たまに‘救世主’のような存在(新規事業を考え、マスコミ効果などもあり、目立つ**‘イケイケ系’**)が現れることがあるんです。すると、その人を中心に進めて行こうという雰囲気になり、せっかくのみんなでやるスタイルが崩れていき、気づけば他力本願に。当人は、夢中になればなるほど、自己顕示欲が強くなり、継続すればするほど自信がついて、つい走りすぎてしまうことも。

一方で、「地域には仕方なく関わっている」という人(**‘イヤイヤ系’**)も少なくなく、そんな状況から脱却したいと訴える人も。しかし、イヤイヤばかり言うと、マイナスイメージが先行し、‘イヤイヤ系’が増えてしまう可能性が……。**‘イヤイヤ系’の人は、実は責任感が強く、地域のために地道に頑張り続けてくれているので、褒めてあげることがモチベーションにつながります。**

まちづくり、地域づくりは、**マニュアル化できない‘塩梅(案配)’がすごく大事**(場づくりのスキルなど。当センターでは、**「塩梅理論」**と称しています)だと思うのですが、それを伝えることはものすごく難しい。なので、役を受けてくれる人を育てるのではなく、**「みんなで協力できる状態を創り出す」**ことが必要です。

ここまで、地域活動に関わる‘イケイケ系’‘イヤイヤ系’という存在をピックアップしてみましたが、忘れてはいけないのが**‘まだ関わっていない住民’**です。実際には、関わっていない住民の方が多いかもしれません。「関わっていない住民との接点がなく誘えない」「誘っても断られる」という役員の嘆きも聴きますが、**‘どのように関わってもらうのか’**を考えなければいけません。ただ、これが実に難しい……！

ここ最近関わっている気仙沼市のとある地区では、住宅再建が進まず(３軒のみ)、自治会形成ができずにいたり、住民アンケートを取っても「好きでここに住んでいる訳ではないので地域活動などいらない」という声が上がる現状と向き合っています。災害公営住宅内で挨拶をしても、返してくれないような現実がある一方、「地域活動は必要だ」という声も。高齢者や子どもを支えていく必要性も挙げられているので、しっかりコミュニティをつくり、「支え支えられる地域にしたい」と、話し合いを重ねているところで、地域づくりのキーワードに上がっているのが**「めげずに声をかけ続ける」**です。

住んでいる住民のコミュニケーションが取れないようでは「活性化」とは言えません。思わぬコト・モノに反応があるかもしれませんし、めげずに声をかけていきましょう(集合住宅や大規模自治会の悩みについては、今後、積極的に考えていきたいと思います)。

企業紹介

地域企業の理念にせまります。

千厩 株式会社　千厩自動車学校

昭和43年、前身となる株式会社千厩自動車教習所(千厩字古ケ口)が創業。昭和44年に岩手県公安委員会の指定を受け、指定自動車学校として現社名に変更(校名は「千厩自動車学校」)。その後、道路交通法の改正等を踏まえ、教習内容・取得できる免許の車種を増やし(全車種教習)、より広い敷地でより安全な自動車教習ができる場として昭和59年に現住所に移設、現在に至ります。

平成22年からは、年２回(春・秋)「一日開放日」を企画実施し、地域住民など多くの方々が「自動車学校を知るきっかけづくり」にも力を入れています。

「開かれた自動車学校」で、地域の安全に貢献

教習だけではない！情報が集まる自動車学校

旧東磐井郡内では唯一の自動車学校であり、就職や進学を控える学生等も、普通自動車の免許を取得するため、所属する学校の許可を得て通学。送迎の対象範囲には気仙沼市本吉町内も含まれており、同校からは多くの卒業生が巣立っています。

「全車種教習＝取得したい車種がすべて揃っています。自動車学校は『失敗すると怒られる』『緊張して上手くできない』などのイメージを持つ方もいると思いますが、自動車運転免許という大きな資格取得に向けて、本校指導員は『褒めて伸ばす』教習を実践中です。一緒に、頑張りましょう！」と語るのは、管理者兼校長の須藤清さんです。

同校は、全国や岩手県の同業種に先立って様々な取り組みを推進してきました。例えば、教習面では、県内初(全国2か所目)のシートベルトコンビンサー※1の導入、岩手初となる県外学生の合宿教習の受け入れ、その他、民間初となる事故や犯罪の被害者を支援するための犯罪被害者支援募金付自動販売機※2導入、誰でも利用可能な食堂の営業など。

須藤さんは「地方の自動車学校だからこそ、教習以外にも様々な情報を仕入れ、実践できることは取り組んでいます。今、自動車学校は『自動車の免許を取る人だけが通う場所』ではなく、『誰でも気軽に訪れることができる場所』でなくてはならないと感じています」と続けます。

地域の「交通安全教育センター」機能を担うために

昭和44年に岩手県公安委員会の指定を受けて以来、地域の「交通安全教育センター」として、地域の園児から高校生、企業向けに、交通安全教室、安全運転適性診断のほか技能講習などを実施しています。「運転技術はもちろんのこと、交通ルールやマナーの大切さを教えることで、安全運転をする優良ドライバーを育成し、結果的に地域の交通安全に寄与できれば」と須藤さん。

平成22年からは、老若男女が同校で学びながら交流できるよう、「一日開放日」を春と秋に1回ずつ開催(コロナ禍で令和2・3年は中止)。一般道を模した広い教習コースや敷地を利用し、交通安全の啓蒙活動を含めたイベントで、令和元年秋の開放日には1123人もの来場者が訪れたとか！「イベント内容も、教官や事務員などとともにこだわりました。たくさんの笑顔に出会えて、本当に『やってみて良かったな』と実感。状況を見ながら再開していくつもりです」と、今後の開放日に向け意気込みます。

「開校から54年、自動車や交通事情・環境も様々変化する中、令和３年7月には優良教習所として東北管区警察局長・東北地区指定自動車教習所連合会長連名にて表彰をいただきました。地域のみなさまのお力添えがあったからこそです」という感謝の気持ちが、今後の運営・教習につながっていきます。

※1　模擬衝突体験装置の座席に乗り、時速約5kmの衝突を体感できる。

※2　(公財)いわて被害者支援センターの活動で、売り上げ代金(受取手数料)の一部を寄付する仕組み。

1　管理者兼校長の須藤清さん。「一日開放日」の発案者。

2　「一日開放日」の様子。小さな子どもたちにも交通安全の意識を感じてもらいます。

3　充実した教習コース。敷地内には誰でも利用可能な食堂も！

DATA

〒029-0803
一関市千厩町千厩字中木六30
TEL 0191-52-2118
HP https://semmaya-ds.co.jp/

地域の‘気になること’をセンタースタッフが独自に調査！

ミッション68

くらし調査「冷蔵庫のないくらし②」ファイルNo.16

昭和40年代まで、当地域における多くの家庭が送っていた「電気冷蔵庫のないくらし」。電気冷蔵庫の導入前に「氷式冷蔵庫」を使用していた家もあり、前号では当時の「氷」事情にスポットを当てました。続編となる今回は「冷蔵庫のない時代の『食』事情」にスポットを当て、冷蔵庫がない中でどのような食生活を送っていたのか、現在の食生活との根本的な「考え方・感覚の違い」を学んでみました！

※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。

■食料自給率が高かった！

電気冷蔵庫のない時代＝昭和40年代以前は、**「生のまま食材を長時間保管する必要のない生活」**が送られており、現代とは大きく食生活が異なっていました（前号参照）。

当時（戦中を除く）の一般的な食事は次のようなものだったようです。

【朝食】主食＋一汁二菜
- **「麦飯」**や**「かて飯」**
- 自家製味噌の**味噌汁**（出汁不使用）
- **「漬け物」「おひたし」「煮付」**
- **「納豆」「魚」**等

【昼食】
- **握飯**
- **主食のみの弁当**（梅干しや味噌漬けがのる程度）

【夕食】「代用食」が基本
- **「うどん」「はっと」「すいとん」**等、**小麦**を使ったもの
- **「そば練り」「そば団子」「そばきり」**等、**蕎麦**を使ったもの
- **「しなもち」「すなもち」**等、粉にした**くず米**を使ったもの

基本的には**「主食＋一汁二菜」**というスタイルですが、**「二菜」の中身が野菜や大豆加工品中心**。野菜も今ほどのバリエーションはないので、**根菜や白菜、青菜**に加え、春に採取した**山菜**を加工して貯蔵、年間を通して食べられるようにしていました（もちろん根菜類も加工保存）。

魚や肉などを食べることは少なく、食べたとしても**魚は塩漬けや干物**になったものが基本で、「生魚」を食べるとすれば、川漁で採ったもの（鮎やマス、ウナギ等）。

肉に関しては、**罠で仕留めたウサギやキジ**を食べたという話も多く、中には狸を食べていたという話も！また、**鶏**を飼育していた家では、普段は**卵**を食べながら、何かの行事などに合わせて鶏肉もいただいたとのこと。

大豆加工品はその多くが**自家製**。**味噌**はもちろん、**醤油**や**納豆**、**豆腐**までも自家製だったという家は少なくありません。納豆を冬場にコタツの中で作ったという思い出話は「農家あるある」とも言えますが、驚くべきは豆腐。気仙沼から来る行商から購入（**非物々交換**）した塩から**「にがり」**を取り出して作っていたのだとか！

その他、**行商人**が定期的に来ていたため、**「必要な食材を必要な分だけ」**という暮らしが成り立っていたようです。次項ではより具体的にこれらの食材の入手ルートや保存方法をご紹介していきます。

生活改善運動と農協婦人部

昭和20年代頃まで、多くの農家の台所は衛生的とは言えない環境でした。煙突のない竈に薪をくべて火をおこすため、竈から土間の中には煙やススが飛び、調理台も膝を床につけた状態で行う高さ。そのため、戦後になると、煙突のついた「文化竈」や水道、立ったまま作業ができる「流し」や「調理台」の普及が叫ばれるようになり、全国的に**「生活改善運動（台所改善運動）」**が展開されます。

地方の農山村部では、その流れが**昭和30年代以降**にやってきて、電気の普及の時期と重なったこともあり、台所改善運動のゴールの一つのような位置づけで「電気冷蔵庫」の導入がブームに。しかし、電気冷蔵庫を導入したところで、上記のように「衛生環境」への知識が乏しい状態であり、食中毒等は頻繁に発生していました（「冷蔵庫に入れれば安心」という考えに結びついてしまった）。

そこで求められたのが**正しい食生活・衛生環境に関する知識普及**であり、その役を担ったのが昭和23年頃から全国各地で結成され始めた**「農協婦人部」**です。昭和26年には「全国農協婦人団体連絡協議会」が結成され、情報共有をはかりながら、各農協婦人部が講座や料理教室を開催するなど、「食生活」の幅を広げる大きな一助となりました。

昭和40年以前の食生活を見える化してみた

「冷蔵庫のない時代はどうやって食品を保存していたのか」という、現代人の素朴な疑問から始まった今回の調査。結果的には**「冷蔵する必要のある食品はあまり食べていなかった／入手した日のうちに食べた／加工して保存した」**という、現代の「数日間は冷蔵保存が当たり前」という感覚とは根本的に異なっていたことが判明。

また、そうした暮らしを送ることができた背景としては、**自家生産していた食材が多かったり、行商人などが定期的に山間部にも来ていた**ことなどがあげられます（ちなみに昭和40年度の日本の食料自給率（カロリーベース）は73%なのに対し、令和２年度は37%）。その具体的な食材入手ルートや保存方法を見える化してみました。

1 食材の入手ルート

入手ルートを大きく分けると以下のように分けられます。※行商等からの「購入」に関しては「物々交換」と混在している可能性があります。

自家生産・製造	購入（行商等）	物々交換	狩猟・採取
米・麦 **根菜類**（大根、人参、牛蒡、馬鈴薯、里芋等） **葉物野菜**（白菜、青菜等） **大豆・味噌** **鶏**（卵・肉）	**海産物**（魚の干物、塩サケ等、海藻類、貝） **肉**（豚・牛） **砂糖** **氷**	米と**塩** 炭と**塩** 米と**海産物** 米と**かつお節** ※塩は気仙沼から「馬背」でやって来た	**川魚**（鮭、鱒、鮎、鰻等） **ウサギ・キジ** **イナゴ** **山菜・きのこ** **木の実**（サルナシ等） **果物**（栗、柿等） ※栗や柿は家の周りに植えていた
醤油 **豆腐・おから・納豆** **牛**（牛乳・肉）・**豚**・**鯉**			

▲旧町村で発刊している町史・村史や当地域の生活に関する各種文献に加え、当センタースタッフが当市在住の中高年層にヒアリングした結果を元に整理しました。※地域性や居住エリア（町場／山間部）によって違いはあると思います。

2 食材の保存方法

上記ルートで入手した食材は「その日のうちに食べる」か、以下のような方法で中長期的に（特に冬場に向けて）保存していました。

埋蔵法	乾燥法	冷凍乾燥法	塩漬け 味噌漬け等	その他
根菜類 **ネギ** **白菜** **茄子・胡瓜** **栗**	**根菜類**（切り干し） **ずいき** **きのこ** **菊の花** **よもぎ**	**凍み餅** **凍み豆腐** **凍み大根**	**野菜**（塩漬け＝漬け物） **肉**（塩漬け、味噌漬け） **魚**（塩漬け、酢漬け） **山菜**（塩漬け）	**ムロ**（土間の中、裏山、石灰石の穴等） **井戸** **貯蔵蔵**

▲「保存」の考え方として「野菜が不足する冬場に向けて」という視点と合わせて、「冬場に食材を凍らせてしまわないように」という視点もあります。そのため、常温保存できる根菜類でも、土の中に藁やムシロなどと合わせて埋蔵していました。また、茄子や胡瓜については「清潔な砂一升と塩一升とをまぜて、その中に入れて置くと春先まで変色しない」という驚きの方法も！

◀山菜は塩漬けにして長期保存。現在も一般的に食される山菜の他、「さいかちの芽」「うるしの芽」「やまごぼうの葉」なども食されていたとする文献も。写真は当センタースタッフ宅のフキの塩漬け。

◀夏場の食材保管には井戸や沢などの冷水が使用された。特に左の写真のような、井戸から汲み上げた水が溜まる洗い場などでスイカやトマトなど夏野菜を冷やしていたとのこと。写真は当センタースタッフ親類の家（萩荘）。

実験！肉の常温保存は本当に可能!?

前号では「氷」の保管について実験をしてみましたが、今回はお肉の常温保存が本当に可能なのかを実験してみました！ヒアリングでは雉やウサギを塩漬けして保存したという話が複数聞かれたものの、さすがに入手が難しいので鶏肉での実験です（笑）塩漬けにした鶏肉が常温環境でどれくらい保存できるのか、そして塩漬けにしたお肉はどのような味になるのか、気になる結果はホームページにて！

＜参考文献＞ 門崎村（1956）『門崎村誌』／岩手県千厩町磐清水公民館（1957）『磐清水村史』／
岩手県農業改良普及会（2011）『食べよういわて―伝統食と食の匠の技』／ その他 ※ホームページには全ての参考文献を掲載しています。